

滝沢村産業雇用創造センター基本構想

平成24年3月 滝沢村

1 背景

本村の地域経済は、平成9年以降純生産額が減少し未だ回復基調になく、企業誘致等と併せて物産振興を手段に経済の活性化が強く求められています。物産は“**その土地の産物**”であり、それを振興することは地域の資源や技術を活用し生産されるものであり、内発的な経済振興策といえます。

本村には、農産、畜産、水産（内水面）、林産などの優れた一次生産物が多くありますが、物産の中でもこれら地域の生産物を素材として生かした地域産品を創造する加工工房等の施設が無いことが、新しい地域産品の創出への障壁となっています。

地域産品は、その市町村や広域圏のイメージと結びつけてはじめて成立するものであり、本村としても独自の“**滝沢産品**”を創り出す必要があります。また、現在、地域産品は各市町村の競合状態に置かれており、消費者ニーズを重視し、消費者がより満足する産品が求められます。そのためには、地域産品を日常生活圏の中で村民や近隣市町村民が好んで食したりすることで地域の文化として根付くことが重要です。

また、本村役場周辺は、盛岡駅から約10km20分、紫波サービスエリアから約28km25分、岩手山サービスエリアから約30km25分、道の駅雫石あねっこから約24km30分、道の駅にしねから約20km25分という立地条件であり、観光エリアとしては盛岡市街地、小岩井・雫石、八幡平の各エリアのほぼ中心に位置します。

盛岡広域圏を訪れる観光客などの交流人口が自動車で移動する場合の中継点として絶好の位置にあることから、施設の観光的活用と結びつけて村の産品をお土産品などとして価値を高める事が求められています。

2 整備目的

(1) 地域農業の活性化

地域農業者の高齢化が進み農産物価格が低迷する中で、遊休農地が拡大し生産力が低下傾向にある等地域農業の活力は低下傾向にあります。村内にはいくつかの産直施設が見られるが、大規模な取組みは少なく村内外からの集客や情報発信には限界があります。

また、地産地消に対する消費者のニーズは高く、近隣の地域では道の駅や直売施設の整備が進み、年々、直売の比重が増加する中で村内においても、新たな流通の仕組みづくりが求められています。

そこで、農産物販売等を核とした施設を整備することで、消費者ニーズを直接捉えてマーケティング力を強化し、集落組織や農業生産法人の生産体系の改革や認定農業者の経営力の強化、施設園芸の推進、遊休農地の有効活用や新品種への挑戦、地域の農業情報の発信等を通して生産者所得を向上させ、地域農業の活性化を目指します。

(2) 地域製品のブランド力の向上

滝沢村の農産物には、『スイカ』『りんご（はるか）』『クイックスイート』等、特色のある農産物が存在する。水稲についても、一般品種の他、「地域」「品種」「栽培方法」等にこだわった『ブランド米』が存在します。

酪農では、村の主要農産物である『牛乳』が県内で有数の生産量を誇る。畜産業では豚、鳥の生産が盛んで、特にも「飼育方法」こだわった『麦香豚』としブランド化を進めています。また、岩手山の伏流水で養殖される『岩魚』を使った特色ある水産加工品もあります。

一方で、こうした滝沢村のおいしさ・新鮮さが消費者に届かず、観光客等からどこに行けばその商品が手に入るのか分からないとの声も聞かれます。

そこで、農産物に加え、乳製品・水産加工品・畜肉加工品等、滝沢村の特産品を一元的に販売することで、地域製品のブランド化と付加価値販売を目指します。

また、現在開発研究中の滝沢ブランド発信ウェブサイトと施設のリンクを図り相乗効果を図ります。

(3) 観光情報の一元的発信と観光の活性化

本村の観光資源は、岩手山と鞍掛山のような『自然系資源』チャグチャグ馬コと宮沢賢治の足跡など歴史や文化にまつわる『文化系資源』などがあり、また、岩手山麓の工房群に代表される工芸品も数多く存在します。

今や大規模な観光地とは別に、小さくても魅力ある施設や資源であれば評価される時代である。それらをどう物語化し、顧客の気持ちを動かすかが重要である。村内の優れた個々の施設を結びつけると線になり、そこに物語が生まれれば集客力が高まる。また、ハード（施設）にしてもソフト（サービス）にしても集積することで地域全体に魅力が生まれます。

個々の資源を結びつける他、異業種間の横断的事業を実施し、点から線へ、線から面へと地域や団体、事業所が一体となった取組みを推進するために、観光情報の一元的発信を目指します。

(4) 多様な団体・企業の連携による地域力の向上

本村には、多様な経済団体・活性化組織、福祉関係団体、さらには特色ある企業等が操業していることに加え、村内には2つの高校、3つの大学が存在します。

多様な団体・企業がそれぞれの力を出し合い、より密接な連携に基づく活発な活動を引き出す仕組みをつくることで、地域力の向上を目指します。

3 施設整備のコンセプト

整備の目的と必要性を踏まえ、当施設の整備コンセプトを以下のとおりとします。

- ★農産物を中心に、加工品等、新鮮で安心・安全な産品であり、この産直施設を訪れた利用者は、滝沢村の旬の産品を購入することができます。
- ★農産物等の販売だけでなく、観光物産、地域情報を一元化し発信することで、ここに来れば必要な情報を全て知ることができます。
- ★滝沢ブランドの推進はもとより、農業者や商工業者が、ここに集い商品や心のかようおもてなしを通して、地域住民、滝沢を訪れる観光客との交流の場となる施設とします。
- ★岩手山と田園風景に配慮した施設づくりや地域の歴史・文化の演出など、滝沢の全ての資源を活用した施設とします。
- ★四季を考慮し、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した施設にします。

4 施設の整備及び運営手法

本施設は、滝沢の物・情報・人・資源が一元的に集まる仕組みを通して、農業振興はもとより、産業全般を活性化するための拠点となる施設となります。

その目的を達成するため施設の整備については、収益性だけを求めた施設整備ではなく、農林水産業、観光業等の活性化という公益性を求めた施設整備が必要になります。また、管理・運営については、本施設が公益性と収益性を併せ持つ施設であるため、民間の活力を最大限に活かすことが重要です。

以上のことから、本施設の整備・運営については、公設民営方式とします。

また、年中無休が可能な柔軟な運営を目指し、生産者、出店者において運営協議会を組織します。

5 施設の機能

地域農業の活性化、地域特産品のブランド力の向上、多様な団体・企業の連携による地域力の向上等、本施設の整備目的を踏まえ、地域産品の販売機能、地域資源を活用した飲食・加工機能、及び利用者ニーズを踏まえた休憩機能等を有する施設とします。

この整備の目的から、施設が持つべき機能については以下のとおりとします。

(1) 農産物等直売施設

地域の農産物に加え惣菜、お弁当などの加工品を販売する施設とします。

CASフリーザー等を導入し通年で農作物の提供可能を図り、外部からの交流人口だけでなく、地域住民の利用増加に努めます。

(2) レストラン

食だけではなく、提供する食器類についても地産地消をアピールし、地域の味覚を提供する施設とします。

(3) 加工施設

地域産品を原料とし、ニーズにあった加工品を製造販売するテナント施設とします。

(4) 多目的エリア

各種イベント、ギャラリー、飲食コーナー、研修、会議等に活用します。

(5) 観光物産情報発信コーナー

チャグチャグ馬コをはじめとする観光資源や地域情報の発信を行い、工芸品やお土産品の販売を行い、滝沢ブランドの発信を行います。

(6) スナックブース

地域特産品であるスイカ、りんご等カットフルーツや焼き芋、そのほか滝沢牛乳ソフトクリーム・ドリンク等を提供するブースを設置します。

(7) 庇・キャノピー

大型商品販売スペースのほか、利用者の休憩スペースやイベント場所として活用します。

(8) 駐車場

大型バス、自動車で来訪する施設の利用者、休憩等の立ち寄り客のために施設専用のスペースを確保します。

(9) トイレ

公衆トイレとして、誰でも利用できるように整備をします。

(10) 休憩場所

飲食、休憩等に活用できるスペースを屋内外に設置し活用を図ります。